



S.Naka

THE UNICORN STAKES

第30回 ユニコーンステークス (GIII)

| 1着 | 2着 | 3着 | 4着 | 5着 |
|----------------|-------------|------------|------------|------------|
| 本賞 37,000,000円 | 15,000,000円 | 9,300,000円 | 5,600,000円 | 3,700,000円 |
| 付加賞 483,000円 | 138,000円 | 69,000円 | | |



レース映像は
「モニタ」

3歳、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 馬齢重量

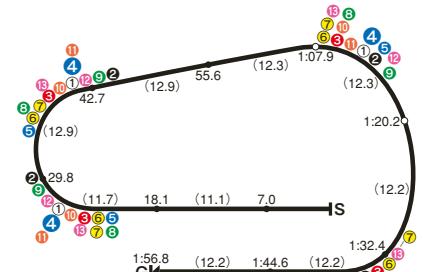
2025.5.3 京都 晴・稍重 ダ1900メートル 国際 指定

| 着順 | 馬番 | 馬名 | 性齢 | 斤量 | 騎手 | タイム | コーナー | 上り | 馬体重 | 単勝 | 調教師 | レーティング |
|----|----|-----------|-----|----|--------|--------|-------------|--------|----------|--------|-----------|--------|
| | | | | | | (着差) | 通過順位 | (600m) | (増減) | オッズ | | |
| 1 | ④ | カナルビーグル | 牡 3 | 57 | 吉村誠之助 | 1:56.8 | 4-4-5-4 | 36.3 | 500(+ 6) | 6.0③ | 佐藤悠太(栗東) | 111 |
| 2 | ⑧ | クレーディング | 牡 3 | 57 | D.レーン | % | 12-11-8-4 | 36.2 | 496(+12) | 1.6① | 中嶋英二(美浦) | 110 |
| 3 | ⑤ | メイショウズイウン | 牡 3 | 57 | 武 豊 | クビ | 12-13-3-2 | 36.7 | 498(+14) | 5.7② | 本田 優(栗東) | 109 |
| 4 | ⑩ | ベリタバグス | 牡 3 | 57 | 藤岡佑介 | 3 | 7-7-8-8 | 36.8 | 478(+2) | 27.2⑥ | 森 一誠(美浦) | 105 |
| 5 | ⑨ | ヒルノハーブルク | 牡 3 | 57 | 坂井瑠瑠 | 1 | 2-2-1-1 | 37.4 | 460(-2) | 33.7⑦ | 武 英智(栗東) | |
| 6 | ③ | ナンヨーハーブル | 牡 3 | 57 | 鶴島亮介 | 1/4 | 8-8-8-8 | 37.1 | 548(+8) | 109.0① | 松永幹夫(栗東) | |
| 7 | ⑫ | ヴィアリアート | 牡 3 | 55 | 和田竜二 | 4 | 3-3-2-2 | 38.3 | 532(-6) | 13.6⑤ | 西村真幸(栗東) | |
| 8 | ⑪ | テスティモーネ | 牡 3 | 57 | 菱田裕二 | % | 4-4-7-8 | 38.0 | 512(±0) | 9.6④ | 大根田裕之(栗東) | |
| 9 | ① | ペルベレコンバース | 牡 3 | 57 | 北村友一 | クビ | 4-4-5-6 | 38.3 | 544(+2) | 51.9⑨ | 小栗 実(栗東) | |
| 10 | ⑯ | チュウジョウ | 牡 3 | 57 | △ショーリケ | 2 | 8-8-11-12 | 38.1 | 500(-4) | 152.3⑩ | 村山佳明(栗東) | |
| 11 | ⑥ | ゴッドエスバーダ | 牡 3 | 57 | 角田大和 | 1/4 | 10-11-11-11 | 38.4 | 474(-6) | 40.2⑧ | 角田晃一(栗東) | |
| 12 | ② | サイモンショーパリ | 牡 3 | 57 | 川須栄彦 | 2 | 1-1-3-6 | 39.2 | 474(±10) | 384.8⑩ | 梅田智之(栗東) | |
| 13 | ⑦ | スマートカイロス | 牡 3 | 57 | 岩田望來 | 大差 | 10-11-13-13 | 43.6 | 518(-8) | 67.3⑩ | 芦井芳人(栗東) | |

单腾④600田(3人) 複腾④150田(3人) ⑧110田(1人) ⑤140田(2人) 枢連④-⑥230田(1人)

単勝④600円(3人) 復勝④150円(3人) ⑧110円(1人) ⑤140円(2人) 枠連④-⑥230円

馬連④-⑧370円(2人) ワイト④-⑧250円(2人) ④-⑨460円(5人) ⑤-⑧220円
馬單④-⑧1640円(5人) 3連複④-⑤-⑧910円(1人) 3連單④-⑧-⑨6090円(1人)



通過タイム : 700メートル 900メートル 1100メートル

上り: 800メートル 600メートル

アラカルト

- ・吉村誠之助騎手はユニコーンS初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算2勝目
 - ・佐藤悠太調教師はJRA重賞初勝利。本年開業した調教師の中で重賞勝ち乗り
 - ・リアルステイブル産駒はJRA重賞通算5勝目
 - ・牡馬の勝利は12年ストローハット以来14年連続、通算28勝目

カナルビーグル *Canal Beagle*

牡 鹿毛 2022.2.10生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・有キャロットファーム 栗東・佐藤悠太厩舎
馬名意味・アルゼンチンとチリの間に流れている海峡。母の生
産国より連想

| | | ソブラドラインクARG系 F3-h | |
|---|---------------------------|--|--|
| リアルスティール 鹿毛 2012 | ディープインパクト 鹿毛 2002 | サンデーサイレンスUSA | |
| | ラヴズオンリーミーUSA 鹿毛 2006 | ウインドインハーヘアIRE Storm Cat | |
| ソブラドラインクARG Sobradora Inc 鹿毛 2012 | Include 鹿毛 1997 | Monevassia | |
| | Stormy Soberly 鹿毛 2005 | Broad Brush Illeria | |
| | | Bernstein | |
| | | Forty Sobria | |

5代までのインブリード: Storm Cat S 3×M4 Hail to Reason S 5×M5

INTERVIEW

木村浩臺 腸金長(ノーザンファーム星来)

実戦タイプなのでしょう

動きにはリアルスタイル産駒特有の硬さを感じられましたが、精神面は大人びており、気性も穏やかでした。ただ、牧場時代は決して目立った存在ではなかったです。デビュー前やユニコーンSのレース後にも、調整を行ってくれたノーザンファームしがらきの厩舎長と話す機会がありましたが、「ここまで走るとは…」と驚いていました。実戦タイプなのでしょう。



上位に離された新馬戦(3着)、馬群に包まれ、完全燃焼できなかつた1勝クラス戦(4着)と、2歳時は2回の敗戦を喫した本馬だが、3歳を迎えて覚醒。始動戦でワンサイドの勝利を飾り、上昇気流に乗つて臨んだこの日は強敵を撃破、3月に開業した佐藤悠太調教師とともに初の勲章を獲得した。雨の影響が残る軽い馬場(稍重)だったことは、いえ、昨年のラムジェット(1分50秒6)より1秒8も速かつた勝ち時計も優秀。羽田盃を完勝したナチュラルライズとの激突が楽しみだ。

父リアルスティール

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首17戦4勝(ドバイターフG1、毎日王冠G1、共同通信杯G3、皐月賞G12着、菊花賞G12着、天皇賞(秋)G12着、神戸新聞杯G12着、スプリングS G22着、ドバイターフG13着)、19年から日、豪で供用
〔代表産駒〕**フォーエバーヤング**(サウジC・沙G1、東京大賞典G1、ジャパンダートクラシックJnH1、全日本2歳優駿JnH1、UAEダービー・首G2、サウジダービー・沙G3、JBC2歳優駿JnH3、ケンタッキーダービー・米G13着、BCクラシック・米G13着、ドバイワールドC・G13着)、**レーベンスティール**(オールカマーG1、セントライト記念G1、エプソムC G3)、**チカッパ**(東京盃JnH2、北海道スプリントC JnH3、JBCスプリントJnH12着)、**オールバルフェ**(デイリー杯2歳S G1)、**カナルビーグル**(本馬)、**ヴィンセンシオ**(弥生賞ディープインパクト記念G12着)、**ノイジーボーイ** Noisy Boy(タロックS・豪G22着)

母ソブラドラインクARG

北米、亜9戦5勝(アルゼンチン銀杯—RVマンシリヤ大賞・亜^{G1}、エンリケアセバル大賞・亜^{G1}、フェデリコデアルベアル賞・亜^{G3}、オスニタスS・米)、17年輸入

ルグランタンゴ(18 牝父ハーツクライ)中央5戦0勝、地方33戦1勝
(19 牝父ドゥラメンテ)

(20 流產)

(20) 初生)

S^GⅢ) 獲得總賞金53,983,000円

ソフィア(23 牝父リアルスティール)

(24 牡父モーリス)

(25 牡父キズナ)

祖母ストーミーソベリー Stormy Soberly

アルゼンチン産 亜2勝

ソブラドラインクARG(12 前出)

アイコニック Iconic(18 牝父Fortify)智6勝

曾祖母四十ソブリア Forty Sobriety

アルゼンチン産 亜2勝、ハットソクラテス Hat Socrates(亜ジョッキークラブ大賞G12着)、レフィナソブリア Refina Y Sobria(ミゲルルイスモラレス賞・亜G22着)の母、ソシオロガインクARG(クリアドレス大賞・亜G1、亜1000ギニー大賞G1、輸入繁殖牝馬)の相伴

2年目を迎えた「3歳ダート三冠」の二冠目・東京ダービーの前哨戦と位置付けられているユニコーンSは、3頭の2勝馬が中心勢力を形成。なかでも2走前のカトア Sでナチュラルライズの2着、前走の1勝クラス戦は8馬身差で勝ち上がったクレーリングが圧倒的な支持を集め、伏竜Sでルクリールカフェの2着に追い込んだメイシショウズイウン、1勝クラス戦を7馬身差で圧勝したカナルビーグルがこれに続いた。結果的に3頭は1~3着を独占。とはいえ勝利の軍配は3番人気のカナルビーグルにあがつた。サイモン・シュバリエが先導役を務めたレースは落ち着いた流れ、一団の隊

列で進行。しかし向正面に差し掛かると後方を進んでいたメイショウズイウングが一気に進出、2、3番手のヒルノハンブルク、ヴィリアリートも呼応して動き、残り1000m地点からペースが上がる。カナルビーグルの吉村誠之助騎手は前の動きを見定めながら4番手を追走。出遅れても先を焦らず、後方で脚を溜めていたクレーキングは3コーナーから位置を上げ、カナルビーグルの外に迫った。